

園訓	心正行正 心が正しければおのずと行いも正しくなる
教育理念	つよいからだと おもいやりのある心をもつ 生きる力のある子どもを育てます。
良い生活習慣	挨拶・返事・身だしなみ・整理整頓・感謝
教育方針	「未来を広げるお手伝い」 教育的特色：造形教育・モンテッソーリ教育・英語教育・食育 生活の基本となる活動：環境活動・SDGs活動の推進
アフターメーション	私たちは、1つ1つのKを大切に、誰もが自分らしく活躍しています。 【6つのK】 1 こども：一人一人を大切に 2 家庭：家庭、家族あってこそこの園 3 環境：自然環境、保育環境、職場環境 4 向上心：さらに良くなるよう 5 開拓：新たなことに挑戦 6 会話：コミュニケーション
仕事の仕方	1、こどものお手本となる振る舞いをしよう。 1、報連相確を徹底し、情報共有に努めよう。 1、無駄を見直し、仕事の効率化を図ろう。

重点項目	具体的項目	昨年度の現状	目 標	目標達成のための方策	評価に対するコメント	最終評価
「良い生活習慣」の浸透と特色教育の実践	○「良い生活習慣」 挨拶・返事・身だしなみ 整理整頓・感謝	・朝夕での挨拶はできているが、廊下等の挨拶は不十分である。 ・身だしなみの徹底が必要	・自分からすすんで元気な挨拶ができる。 ・制服・靴を美しく身につけることができる。 ・感謝の気持ちを持って生活している。 ・3Sの心を育む。	・朝夕での挨拶の継続とともに、9時15分までの登園を周知徹底する。 ・制服・靴をきちんと身につける指導（保育室の姿見・こまめな声かけ） ・「ありがとう」と声に出す実践と指導 ・トイレのスリッパ、保育室の整理整頓（3S）の実践と指導	・朝の挨拶は、自分から進んで挨拶できるようになったが、登園時間の徹底はできていない。 ・朝と帰りの会での指導で身だしなみは改善できた。 ・感謝の気持ちが、自分から言えるようになってきた。 ・トイレスリッパの整頓は、職員がいる時はできるがまだ徹底できていないが、保育室の整理整頓は概ね良好である。 ・ぴかぴかレンジャー宣言と管理職のクリーンチェック実施。	B
	○造形教育	・外部講師による職員研究会により成果をあげた。 ・実践美術教育学会で実践成果を発表した。 ・世界児童画展「都道府県賞」を受賞した。	・造形活動を通して豊かな感性、創造力を育む。 ・職員の指導力向上を図る。	・キッズアートウィークの活動配信（1月）、保護者参観で製作過程の見える化 ・作品展を1年間のこどもの成長を保護者と共有する機会とする。 ・世界児童画展、ねりんピック等への積極的な出品参加 ・外部講師大橋功先生による造形研究会の実施（6・10・1月） ・県外園を視察し、造形教育に新たな要素を加える。	・一年を通して、造形活動の製作過程をインスタや動画アプリ等で配信し、保護者と共有できた。 ・世界児童画展では、多くの作品を出展し、多数の入賞作品に選ばれた。（特選1名、入選5名） ・外部講師による造形研究会の実施や園外の他園の視察を通じて、職員の指導力の向上を図った。	A
	○モンテッソーリ教育	・ディプロマ講師による伝達講習は未実施	・モンテッソーリ教具を通して、自発的な活動を行うことができる。 ・職員の指導力向上を図る。	・モンテッソーリ教具の整理と見える化 ・ゲストティーチャー（ディプロマ講師：門脇副園長）による保育実践	・モンテッソーリ教具は整理したが、教具の使い方が分からず、うまく活用されていない。 ・ディプロマ講師による保育実践は実施できていない。 ・日常生活の中に、モンテッソーリ教育の要素を取り入れていることから、今後特色教育にするのか検討が必要である。	C
	○英語教育	・外部講師の研修、ネイティブ職員等により、成果をあげている。 ・オンラインの国際交流プログラムを通じて、興味関心を世界に向けている。	・英語を楽しむ心を育む。 ・世界への興味、関心を広げる。 ・ネイティブ職員を身近に感じ日常において英語で接することができるようになる。	・外部講師佐藤久美子先生を招聘し、保護者講演会（4月）を開催し、園の英語教育への理解を促す。 ・英語教育の保幼小連携に取り組む。（小学校参観等） ・オンライン（せかいタッチ）の活用法を再考し更なる国際交流を推進する。 ※R5年度国際交流プログラムが、「せかいタッチ」と名称を改め内容が新しくなった。	・4月に外部講師による保護者講演会を開催し、多数の参加があり英語教育への理解が深まり、大好評であった。 ・年長児が福米西小学校の生活発表会練習を参観し、保幼小連携を図った。 ・国際交流プログラム「せかいタッチ」を活用し、国際交流を実施した。	B
	○食育	・食育推進活動に努め、県知事表彰を受賞した。 ・毎月19日「食育の日」に「もぐもぐ」発行 ・野菜の栽培収穫体験をする。 ・非常備蓄食の試食	・食を楽しみ、食べ残しをなくす（SDGsと連携） ・正しい姿勢、箸の持ち方を身に付ける。 ・英語教育（せかいタッチ）と連携した世界の料理、日本の行事食の理解を深める。 ・「食べる」「育てる」といった直接的な体験を通して、食への興味を引き出す。 ・かみかみメニューなどの工夫により、こどもの成長発達を促し、家庭との連携をはかる。	・「もったいない」の意識とエコデリートを知り、SDGsと連携した教育の実施（食べ残しの見える化） ・モンテッソーリ教育を活用 ・世界地図を掲示し「ワールドツアー」の見える化を図る。 ・管理栄養士からの食育推進、インスタグラムの給食配信 ・「苗植え」と「収穫」だけでなく成長の過程を見ることで、より食への興味を持つ。（田植え体験後の案山子製作） ・月に1回いりこを提供し、噛むことの大切さを促す。 ・「かみかみメニュー」の見える化と「食育だより」の発行	・毎月の食育会議で、食事量の共有により、食材の残飯や調整をしてきた。また、「食べ残しの見える化」により、「もったいない」という意識が備わってきている。 ・毎月の献立に世界料理と郷土料理を入れ、管理栄養士からの直接説明により、文化と料理に興味と理解を深めることができた。 ・年中児が日本の保存食である味噌づくりに取り組んだ。 ・年長児が、田植え体験や案山子製作、稲刈り体験に出かけ、稲の生長過程を見て、より食への関心が高まった。 ・年長児が隣の魚養殖場を見学した後、鮭の解体ショーを見るとともに給食でその鮭を食し、食への理解を深めた。 ・献立表に「かみかみメニュー」を示すとともに、保護者向け給食試食会も開催し、家庭と連携を図った。	A
人材確保と人材育成	○働きやすい職場づくり 平日開催を行った。 ・女性休養室を整備した。	・ワークライフバランスを取り、心身共に健康で業務に取り組むことのできる環境を整える。	・行事の精選、内容の見直し、平日開催を検討（陶芸活動の外部委託等） ・ICTチームを作り、事務処理の効率化を図る（文書管理・デジタル化・集約・共有） ・ライフステージに合わせた新たな働き方の導入（正職とパート往來型） ・健康経営優良法人として、外部講師による職員向け講習会の実施	・行事の内容は、その都度見直しながら実施している。 ・ICT導入については、得手不得手があり全体としての効率化には繋がっていない。 ・正職とパート往來型の制度を検討した。 ・休養室の活用はできていない。休憩時間の確保が課題。 ・7月に、県派遣講師による職員向け「出張がん予防教室」を開催した。	C	

人材確保と人材育成	○次世代スタッフの育成	・中国地区私立幼稚園教育研修会に参加し保育の課題等について理解を深めた。 ・新採研研究保育を通してスキルアップを図った。	・各種研修会に積極的に参加し、保育の現状、課題等について学びを深める。 ・新採研研究保育をはじめ、園内研修を充実させスキルアップを図る。	・スキルアップ研修への参加（新採用者研修、中堅教諭資質向上研修） ・職員育成担当者によるタイムリーな育成指導の実施 ・リーダーへの報告、連絡、相談、確認を徹底し正しい判断に繋ぐ。 ・他園、施設の視察を行い、視野を広げる。	・スキルアップ研修に積極的に参加した。 ・他園や他施設の視察は積極的に行った。（博多・姫路） ・報連相確の徹底にもう少し努力が必要である。 ・新採用者と中堅教諭でクラス運営を行い成果をあげ「エルダー、メンター制度」実施園認証を授与した。 ・木育インストラクターの資格取得をした。（2名）	B
子育て支援事業	○未就園児向け親子イベント	・子育て支援事業「穂咲む」開始 (子育てサークル「おひさまくらぶ」開催・園庭開放)	・親子が安心して遊べる環境や交流の場所作りの推進	・子育て支援事業「穂咲む」の活動内容を充実させる。 (子育て支援サークル「おひさまくらぶ」開催：月3回、保育体験の推進による園児との交流、未就園児親子の絵本貸出の実施、園庭開放（未就園児・在園児親子）	・子育て支援サークル「おひさまくらぶ」は、計画通り行うことができ、多数の未就園児親子に参加してもらった。 ・「穂咲む」の活動として延べ数223名の参加があった。	A
	○ファミリーサポート体制の強化	・子育て相談窓口開設 ・担任教諭の情報による個別相談の実施	・子育て家庭をサポートし、保護者の悩みや不安を解消し、保護者とこどもの健やかな成長を目指す。 ・体調不良児対応型保育の基礎作り	・子育て支援事業「穂咲む」の活動として、保護者の育児不安解消の子育て相談の実施、保護者の学びの場の提供（育児講座）：マザーズコーチング講座の開催（年2回） ・発達などの悩みを地域の関係機関等と連携を図る。 ・子育て支援情報の提供体制の充実（コドモン・インスタ使用） ・体調不良児対応型保育の実現に向けて、基礎作りを進める。（看護師補充、保健室準備等）	・「おひさまくらぶ」のイベント内で、マザーズコーチング講師を招き、育児講座を実施した。 ・在園児保護者からの個別の子育て相談も多数あり、育児不安解消になるよう取り組み、家庭との連携を図った。 ・発達相談では、市の関係機関と連携を図った。 ・体調不良児対応型保育の準備は進んでいない。	B
施設・広報	○施設管理	・新車両1台更新 ・新たにスマイルバス・ウサギバスを導入	・安心安全な保育環境の充実 ・園庭遊具の更新 ・ウッドデッキの改善 ・地震避難時の垂直避難の検討 ・厨房機器の更新	・園庭固定遊具（上り棒）を撤去し、安全を担保する。 ・プールを適正なものに更新するとともに、使用方法を検討する。 ・低年齢ウッドデッキの有効活用について決定する。 ・保健室の移動、設置場所の検討 ・スチームコンベンション、炊飯器の更新	・毎月1日に、安全点検日を行い、安心安全な保育環境に努めた。 ・年少児用プールの更新や厨房機器の更新を行った。 ・低年齢ウッドデッキは、修繕業者が決定し、今後修繕予定である。	B
	○広報	・パブリシティ14件 ・インスタグラムフォロワー400人突破	・パブリシティ目標16件 ・インスタグラムフォロワー目標450人 ・おうちえんのタイムリーな配信 学年ごとに3回/月の配信	・報道機関への取材依頼を積極的に行い、活動を広報する（園長） ・インスタグラム・おうちえん等の発信操作ができる人数を増やすことでタイムリーな発信を行う。 ・広報（HP・インスタグラム・おうちえん等）の効率的な運用に向けて、一元化の準備をする。	・地元のテレビや新聞等に取り上げてもらい、園の様子を地域にも多く発信してきた。パブリシティ 11件(1月末) ・「保育の見える化」で、できる限りこどもたちの様子や保育の過程をメールやインスタ・動画アプリ等を活用し配信してきた。インスタグラムフォロワー数 561人（1月末） ・玄関にデジタルサイネージを導入し活動の見える化に効果を上げた。	A
その他	○地域連携とSDGs活動推進の取組みの拡充	・「心正の森大作戦」心正の森協議会を構成し活動推進した。 ・美保中学校・古着deワクチン、モンゴルに漫画本を送る等外部連携を行った。 ・「ちきゅうフレンズ」新カリキュラムの導入 ・手話パフォーマンスなどに参加	・保護者と地域を巻き込んだ、取組みにより、SDGsの学びを深める。 ・「そらべあスマイルプロジェクト」環境教育3年目最終年度取組の実践（年長児） ・「もったいない」の食育との連携 ・世界の環境を意識した取組みの継続 ・地域の取組みに積極的に参加する。	・「心正の森大作戦」は、親子活動年2回、学童活動年1回実施し、SDGsの取組みと地域連携を推進する。 ・古着deワクチン、リサイクルランド、海岸清掃活動、ブックサンタ ・ソーラーランタン作製 ・「もったいない」の意識とエコデリートを知り、SDGsと連携した教育を実施（食べ残しの見える化）の継続 ・「ちきゅうフレンズ」を活用し、世界にも目を向ける。 ・ねんりんピックへの協力（応援メッセージ作製、応援参加）	・「心正の森大作戦」は、親子活動2回（5月・11月）、学童活動1回（8月）実施した。 ・日南町に企業版ふるさと納税をし、表彰を受けた。 ・古着deワクチン（4月・11月）、海岸清掃活動（5月・6月）、ブックサンタ（12月） ・「そらべあスマイルプロジェクト」の環境教育として、年長児がソーラーランタン作製 ・「ちきゅうフレンズ」は、年中組・年長組が実施。 ・今年度開催のねんりんピックに参加選手に向けて、園児作製の「ウェルカムボード」掲示と応援参加をした。 ・「ミラ・クル・とっとり運動・SDGs活動表彰」で優秀賞受賞	A
	○60周年記念行事準備		・創立60周年準備委員会の立ち上げ	・メンバー、スケジュール内容の検討	・60周年準備委員会の話し合いは開催したが、具体的なスケジュールや内容は今後検討し決定する。	C

【 評価基準 】 A: 目的目標を十分達成した B: ほぼ計画どおり達成した C: 取り組まれているが、成果が出ていない D: 一層の取組が必要である